

第4学年国語科学習指導案

1 単元名 読んで考えたことを話し合おう「ごんぎつね」

2 指導の考え方

—子どもの実態—

本学年の子どもたちは、1学期単元「白いぼうし」の学習を通して、登場人物の様子や気持ちを読み、松井さんの優しさにふれてきた。

また、少女になって現れたちょうを助けるというファンタジーの楽しさも味わった。

そして、「一つの花」では、お父さんが一つの花を通してゆみ子に伝えたい願いや、それを受け止めて暮らすゆみ子の様子を場面を比べながら読み深めてきた。

この2単元を通して、中心となる言葉や文を読んだり、場面を比べて読んだりすることを通して、登場人物の性格や気持ち、情景などについて、叙述をもとに想像して読む力をつけてきている。

しかし、友達のことを聞いて、自分の考えとの共通点や相違点を見出して話し合いながら、自分たちで考えを導き出し、読み深める力は、まだ十分に身に付いていない。

—教材の特質—

本教材は、ひとりぼっちのさびしさからいたずらをしていたごんが、兵十はおっかあにウナギを食べさせたかったと思いこみ、つぐないを続け、自分を認めてほしいというひたむきな思いが描かれた作品である。冒頭に、村の茂平さんから小さいころ聞いた話として語り手が登場し、6つの場面全体を包み込む構成になっている。6つの場面は、時間を表す言葉を軸に時系列で描かれ、主人公「ごん」の気持ちの変化と事柄の因果関係をたどるのに適した教材である。

また、心内語、類縁語、文末表現、呼称の変化に着目させ、登場人物の気持ちの変化を読むことで、4年生の物語文で身につけさせたい力である「場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読む」ことが期待できる。

—指導にあたって—

指導にあたっては、読むことの楽しさや価値を実感させることができるように、以下のような授業づくりを行う。

単元の入り口では、単元名とリード文から、詳しく読んだことをもとに自分が心に残ったことを話し合おうというかまえをつくる。

読みのめあてをつくる段階では、題名と冒頭から「語り手の心に残ったのは、ごんぎつねの話の何なのだろうか。」という読みのめあてを生み出す。その際、語り手のように心に残るほどの話が自分にはあるか、ということを考えさせ、これからの読みへの意欲をもたせる。

読みのめあてに対する初めの考えをつくる段階では、全文を読み、場面ごとに時・場所・人物を整理し、物語のあらすじをとらえさせ、読みのめあてに対する初めの考えを書かせる。その際、ごんの行動でなく、行動の裏にある思いや気持ちにまどめていく。

学習計画を立てる段階では、各場面におけるごんの気持ちが最も表れた文に線を引かせ、そこを場面の中心文として読み深めていく。

読み深めの段階では、ごんはどんな気持ちだったのか、それぞれの場面を読んでいくことでひとりぼっちのさびしさを読みとらせる。その中で、「次の日」「おれが」の繰り返しを読む読み方や「ちがいない。」「だろう。」などの文末を読む読み方や「ごん」の呼称の変化を読む読み方を身につけさせるようにする。

読みのまとめの段階では、読み深めたことを振り返り、語り手が心に残ったことについて書きまとめ、交流させる。

単元の出口では、心に残ったり、感動したりした本を紹介し合う活動を2学期末に行うことを伝え、日常の読書へと広げることができるようにする。

☆焦点化

○ごんの言動のわけを中心に考えさせる。

・中心文

ひとりぼっちの小ぎつね
夜でも昼でもいたずら～
おれと同じひとりぼっち
ごんはぐったりと～
うなずきました。

○ごんのさびしさの中身にせまらせる。

☆可視化

○構造的に板書を行う。

・チョークの色を変える。
(行動・気持ちの変化)

・読み深めたことを囲む。
・中心文と考えを線でつなぐ。

○掲示物を指しながら話す。

・前時までの叙述

○自分の考えや根拠となる叙述を持ち寄り話し合う。

・学習プリント

☆共有化

○少人数で話し合わせる。

・様々な考えの3人組

○相手の考えを自分の考えと比べながら聞く。

・共通点や相違点

○子どもの意見・考えの整理する。

・根拠と考え

・気持ちと行動

3 目標

- いたずら、後悔、つぐない、期待、落胆、死という展開で描かれているごんの姿から、語り手の心に残ったごんのさびしさを読み取ることができるようにする。
- 似た言葉や文末表現、呼称の変化に着目したり、場面を比べて読んだりしながら、人物像や気持ちの変化を読む読み方を身に付けることができるようにする。
- 学習プリントにまとめた自分の考えを示しながら少人数で話し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付きながら、ごんぎつねや兵十の気持ちについて話し合うことができるようにする。

4 学習計画(全15時間)

次時	主な学習活動と内容	教師の支援 (☆焦点化, 可視化, 共有化の視点から *評価規準)
一 読みのめあて	1 15 1 単元名から学習のねらいをとらえ、題名から冒頭を読む視点を生み出す。 2 題名からつないで冒頭を読み、読みのめあてをつくる。	○ 単元名やリード文をもとに、単元全体の見通しをもたせる。 ○ 語り手が心に強く残るほどの話であることを確認し、これからの読みへの意欲をもたせる。 ☆ 「わたし」という語り手が設定された物語であることや小さいときに聞いた話なのに忘れず心に残っているということに気付かせ、語り手を意識させる。(焦点化)
	<p style="text-align: center;">ごんぎつね 新美 南吉</p> <p>どんなぎつねだろう? ぎつねの名前かな?</p> <p style="text-align: center;">語り手=この話をする人</p> <p>これは、<u>わたし</u>が<small>小さい</small>ときに、<u>村の茂平</u>というおじいさんから<u>聞いた</u>お話です。</p> <p>ごんぎつねの話 子どものころ 何十年前 子どもの時に聞いて、ずっと忘れられない心に残っている 覚えている } それは何?</p> <p>読みのめあて 語り手の心に残ったのは、「ごんぎつね」の話の何なのだろうか。</p> <p style="text-align: right;">* 題名や冒頭から登場人物をとらえ、読みのめあてをつくっている。</p>	
二 読みのめあてに対する考え	2 3 4 5 15 1 全文を読み、新出漢字や音読の練習・難語句の意味調べをする。 2 文章構成をつかみ、場面ごとにごんが何をしているか話し合う。	○ 範読のあと、一斉音読や一人読みなど音読のさせ方を工夫し、すらすら音読できるようにさせる。 ☆ 一覧表に1～6の数字、時・場所・人物を確認し、文章構成をとらえさせる。(可視化)
<p>1の場面の前半…ごんがいたずらする場面 4, 5の場面…ごんがつぐないをわかってもらえない場面</p> <p>1の場面の後半…ごんが兵十にいたずらをする場面</p> <p>2の場面…ごんがはんせいをする場面 6の場面…ごんがうたれた場面</p> <p>3の場面…ごんがつぐないをする場面</p>		

	<p>3 読みのめあてに対する初めの考えを書く。</p> <p>【初めの考え】 語り手の心に残ったのは… ○ごんのさびしさ ○ごんの一生懸命さ ○ごんのやさしさ ○ごんの悲しさ など ○ごんの気持ちが変わったところ</p>	<p>☆ 初めの考えを同質でまとめるなかで、行動を元にして気持ちにせまらせる。(共有化)</p> <p>* 根拠の文をもとに、場面ごとにあらずじやごんぎつねがどんなきつねか考えている。</p>
<p>三 学習計画 6 / 15</p>	<p>読みのめあてに対する初めの考えをもとにして、読み深めのめあてをつくらう。</p> <p>1 ごんの気持ちが最も表れた文からそれぞれの場面をくわしく読んでいく計画を立てる。</p> <p>【読み深めのめあて】 (1の場面の前半)…夜でも昼でも、いたずらばかりするごんの気持ち (1の場面の後半)…ちよいと、いたずらをしたくなかったごんの気持ち。 (2の場面)……ちよつ、あんないたずらをしなけりゃよかったと思ったごんの気持ち。 (3の場面)……「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」と思ったごんの気持ち 次の日も、その次の日も、くりや松たけを持っていくごんの気持ち。 (4・5の場面)……おれは引き合わないなあ、と思ったごんの気持ち。 (6の場面)……ぐったりと目をつぶったまま、うなずいたごんの気持ち。 火なわじゅうをばたりと取り落とした兵十の気持ち</p> <p>2 今日の学習をふり返る。</p>	<p>○ 根拠となる文にサイドラインを引かせ、話し合い、学習計画につなげる。 * 場面ごとにどんなきつねかを考え、根拠の文に線を引いている。 ○ 6の場面のみ、兵十の気持ちを読み深める。</p> <p>☆ 中心文を設定することで、次時からの学習に見通しをもたせる。(焦点化)</p>
<p>四 読み深め① 7 / 15 (1組本時)</p>	<p>いたずらばかりするごんの気持ちを読み深めよう。</p> <p>1 本時のめあてを確認する。 2 読み深める。 (1)場面音読をする。 (2)中心文を読む。 (3)ごんのいたずらを読む。 (4)いたずらの理由を書く。(書く活動①) (5)少人数で話し合う。(かっぱタイム) (6)全体で話し合う。</p> <p>3 本時学習をまとめる (1)めあてに対する自分の考えを書きまとめる。(書く活動②) ごんがいたずらばかりしたのは、親も友達もないひとりぼっちでとてもさびしくて、村の人達にかまってほしい気持ちやだれかに気づいてほしい気持ちだったから。 (2)本時で使った「読みのたから」をまとめる。 ・はずして読む。</p>	<p>☆ 1人の考えについて聞き、自分の考えとの共通点や相違点を考えさせる。(共有化) ☆ いたずらの理由を明確にさせるためにごんのさびしさの中身を考えさせる。(焦点化)</p> <p>ごんは、ひとりぼっちの<small>友達、家族がいない、小さい</small>小ぎつねで、<small>暗い、人が周りにいない、こわい</small>しだのいっばい<small>暗い、せまい</small>げった森の中に、あなをほって住んで～</p> <p>はずして読む そして、<small>いつも 1日中</small>夜でも昼でも、辺りの村へ出てきて、いたずらばかりしました。</p> <p>畑へ入ってもほり散らしたり～ 菜種がらのほしてあるのへ火をつけたり～<small>火事になる</small> 百姓家のうら手につるしてあるとんがらしむしり取っていったり～ <small>食べられない *ひどいこと</small></p> <p>☆ 読み深めた内容を赤チョークで囲むことで、視覚的に明確にし、書きまとめさせる。(可視化) * 本時で確認したキーワードを使って、ごんの気持ちを自分の言葉で書いている。</p>

ちよいと、いたずらをしたくなっ
ごんの気持ちを読み深めよう。

- 1 本時のめあてを確認する。
- 2 本時場面を読み、めあてについて話し合う。
 - (1) 中心文「ちよいと、いたずらをしたくなっ
たのです。」の「ちよいと」につ
いて話し合う。
 - (2) なぜ、ごんは、軽い気持ちでいた
ずらをしたのかについて、根拠とな
る文にサイドラインを引き、自分の
考えを書く。(書く活動①)
 - (3) 少人数で話し合う。(かっぱタイム)
 - (4) 全体で話し合う。

- 自分の生活経験と照らし合わせ、ごんが、
軽い気持ちでいたずらをしたことを
確認させる。
- 中心文と他の叙述とをつないで書き込みを
させる。
- いたずらの根底には、ごんの一人ぼっちの
さびしさがあったことに気付かせる。

ごんはひとりぼっちの小ぎつねで、～いたずらばかりしました。(冒頭)
・親や友達もいない・さびしい

しだのいっばいしげった森の中に、あなをほってすんでいました。(冒頭)
・暗くてさびしい

二、三日雨がふり続いたその間、ごんは、外へも出られなくて、
・村の人にも会えなくてさびしかった。

あなの中にしゃがんでいました。
・暗い、こわい

雨が上がると、ごんは、ほっとしてあなからはい出ました。
・やっと村へ行けるぞ・だれかに会えるぞ

ちよいと、いたずらがしたくなっ
たのです。
・軽い気持ち
はずして読む

「うわあ、ぬすつとぎつねめ。」
文の終わりを読む
・とても怒っている
・にくく思っている

ごんはほっとして、うなぎの頭をかみくだけ、
～あなの外の草の葉の上のせておきました。
・いたずらがしたかっただけで、
うなぎを食べたかっただけではない。

場面をつないで読む

・ごんは、友達もいなくてさびし
かったから、兵十を困らせようとおも
って、いたずらをしたのではない。

- 3 本時学習をまとめる。
 - (1) めあてに対する自分の考えを書き
まとめる。(書く活動②)

☆ 前時に読み深めたことを板書することで視
覚的に前の場面とのつながりを意識させ、ご
んの心情にもせまらせる。(可視化)

ごんがちよいと、いたずらをしたくなっ
たのは、ひとりぼっちでとてもさびしく、兵十
にかまってほしかったから。

- (2) 本時で使った「読みのたから」を確
認する。
 - ・場面をつないで読む。
 - ・はずして読む。
 - ・文の終わりを読む。

* 本時で読み深めたことや板書を手がかりに
して、自分の言葉でまとめを書いている。

ちよつ、あんないたずらをしなけりゃよかったと思ったごんの気持ちを読み深めよう。

- 1 本時のめあてを確認する。
- 2 音読をし、めあてについて話し合う。
 - (1) 中心文「ちよつ、あんないたずらをしなけりゃよかった。」の「ちよつ」について話し合う。
 - (2) 文末表現から、ごんの思いこみの理由について考える。
(書く活動①)
 - (3) 少人数で話し合う。(かっぱタイム)
 - (4) 全体で話し合う。

- 冒頭の三つのいたずらでは、後悔していないごんを確認させる。
- ☆ ごんが兵十のおっかあを死なせてしまったと「思いこんだ」ことに着目させ、考えさせる。(焦点化)
- ごんが思い込んだのは、ひとりぼっちの自分と兵十を重ね合わせて考えたことに気付かせる。

赤いさつまいもみたいな元気のいい顔が、今日はなんだかしおれていました。
・元気がない

「ははん、死んだのは兵十のおっかあだ。」
・兵十が悲しんでいる

そのばんごんは、あなの中で考えました
・ごんが勝手に考えたこと。

「・・・うなぎが食べたいと言ったにちがいない。」
・ごんの想像、思いこみ

そのまま、おっかあは、死んじやったにちがいない。
・想像、思いこみ

ああ、うなぎが食べたい、うなぎが食べたいと思いながら死んだんだらう。
・ごんの想像

ちよつ、あんないたずらをしなけりゃよかった。
・こうかいしている
・しまった
・兵十のおっかあが死んだのは自分のせいだと思いこみ、後悔している。

文末表現を読む

指示語を読む

- 3 本時学習をまとめる。
 - (1) めあてに対する自分の考えを書きまとめる。(書く活動②)

* 本時で読み深めたことや板書を手がかりにして、自分の言葉でまとめを書いている。

ごんがあんないたずらをしなけりゃよかったと思ったのは、自分のせいで兵十のおっかあへの思いがとどかなくなったので、自分のいたずらをととても反省し、後かいしているから。

- (2) 本時で使った「読みのたから」を確認する。
 - ・指示語を読む。
 - ・文の終わりを読む。

読み深め④

10 / 15 (2組本時)

「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」
と思い、くりや松たけを持っていったご
んの気持ちを読み深めよう。

- 1 本時のめあてを確認する。
- 2 場面音読をし、めあてについて話し合う。
 - (1) 中心文「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」について話し合う。
 - (2) つぐないをし続けた理由について考える。(書く活動①)
 - (3) 少人数で話し合う(かっぱタイム)
 - (4) 全体で話し合う。

- ☆ ごんと兵十のひとりぼっちの違いを出させる。(焦点化)
- ☆ めあてに対して、その根拠となる叙述にサイドラインを引かせ、自分の考えを学習プリントに書かせる。(可視化)
- ☆ 少人数で話し合ったことをもとに、自分の考えを発表させる。読みの浅い子どもには、中心文にもどらせる。(共有化)

「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か」
兵十も「ひとりぼっち」だと思いこんでいる。
兵十もさびしいだろう。くらしも貧しい。兵十のために何かできないかな
兵十のうちにいわしを投げこんで

次の日には、ごんは山でくりをどっさり拾って、それをかかえて兵十のうへへ行きました。

次の日も、また次の日も、ごんはくりを拾っては兵十のうちに持ってきてやりました。
その次の日には、くりばかりではなく、松たけも二、三本持っていきました。
いわしを投げ入れて兵十にめいわくをかけて、反省した。文末表現を読む
自分でくりや松たけをとってくるようになった。
持ってきてやったという気持ちから自分が持っていくようになった。

ごんはひとりぼっちのさびしさがわかるから兵十とわかりあいたいという気持ちで、つぐないを続けた。

- 3 本時学習をまとめる。
 - (1) 本時で読み深めたことを書きまとめる。(書く活動②)

- * 話し合ったことをもとに、ごんのさびしさを書きまとめている。

ごんがくりや松たけを持っていき続けたのは、兵十が自分と同じ、ひとりぼっちだと思
いこみ、兵十とさびしさをわかり合いたいと思ひ、兵十と仲良くなりたいたと思ったから。

- (2) 本時で使った「読みのたから」を確認する。

読み深め⑤

11 / 15

「引き合わないな」と考えているごんの
気持ちを読み深めよう。

- 1 本時のめあてを確認する。
- 2 場面音読をし、めあてについて話し合う。
 - (1) つぐないをし続けた理由について考える。(書く活動①)
 - (2) 少人数で話し合う。(かっぱタイム)
 - (3) 全体で話し合う。

- ☆ 「引き合わない」の意味や「何が引きあわないのか」をはっきりさせ、「なぜ、引きあわないのがっかりしているのか」考え書き込むようにさせる。(焦点化)

(4の場面)
月のいいばんでした。
「…だれだか知らんが、くりや松たけなんかを…」
ごんは、二人の後をつけていきました。
見つからないように *自分の名前が出てくるだろうと期待している。

(5の場面)

ごんは、お念仏がすむまで、いどのそばにしゃがんでいました。
 話の続きが聴きたいから期待してじっと待っている。

1の場面のあなの中で退屈しているときとは違う。

ごんは、二人の話を聞こうと思って、ついていきました。

兵十のかけぼうしをふみふみ行きました。見つかるぐらい近くだから相当期待している。

近くで話が聴きたい。自分の名前が出てくると期待している。 * どんどん近づいている。

喜んでくれている、気づいてくれていると期待している。どんどん期待がふくらんでいる。

「へえ、こいつはつまらないな。」がっかり、期待はずれ

指示語を読む くりや松たけを持っていても自分の仕業だと気づいてもらえないこと

「おれがくりや松たけを持って行ってやるのに、

そのおれにはお礼を言わないで、…

おれは引き合わないなあ。 兵十に対する自分の思いの大きさと兵十のごんに対する思い

繰り返しを読む が引き合わない

自分をわかってもらいたい。でもわかってもらえない

3 本時学習をまとめる。

(1) めあてに対する自分の考えをまとめる。(書く活動②)

* 「引き合わない」ごんの気持ちを読みとり、板書などを手がかりにして、自分の言葉でまとめを書いている。

兵十が自分のことに気付いているかもしれないと期待し、かけぼうしをふむぐらい近づいていったごんは、兵十が気付いていないことを知り、がっかりしてさびしい気持ち。

(2) 本時で使った「読みのたから」を確認する。

- ・ 指示語を読む。
- ・ くり返しを読む。

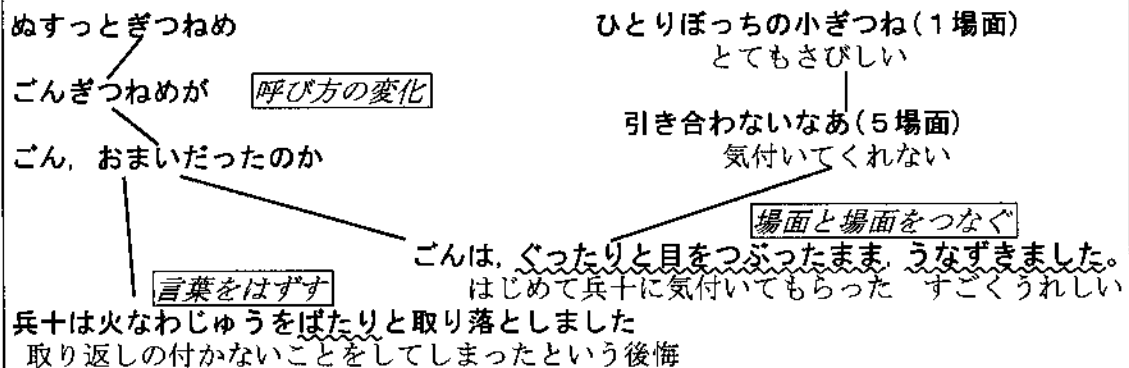
読み深め⑥

12 / 15 三組本時

ぐったりと目をつぶったまま、うなずいたごんの気持ちを読み深めよう。

- 1 本時のめあてを確認し、音読する。
- 2 場面音読をし、めあてについて話し合う。
 - (1) ぐったりと目をつぶっているごんの様子を読む。
 - (2) うなずいたごんの気持ちを書く。(書く活動①)
 - (3) 少人数で話し合う。(かっぱタイム)
 - (4) 全体で話し合う。
 - (5) 火なわじゅうをばたりと取り落とした兵十の気持ちを読む。

- 「ぐったりと目をつぶったまま」の叙述に着目させ、動作化させる。
- ☆ 書く順番に沿って書き出しを決めることによって、自分の考え、根拠となる文、解釈を書くことができるようにする。(焦点化)
- ☆ 話し方及び話し合いの仕方の表を提示することによって、自分の意見と友達の見解の共通点・相違点に気付くことができるようにする。(共有化)



	<p>3 本時学習をまとめる。</p> <p>(1) めあてに対する自分の考えをまとめる(書く活動②)。</p>	<p>* 本時で読み深めたことをもとにして、まとめを書いている。</p>
<p>五 読 み の ま と め</p>	<p>(2) 本時で使った「読みのたから」を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼び方の変化。 ・場面と場面をつなげる。 ・言葉をはずす。 	<p>☆ ごんの行動を青、ごんと兵十の気持ちを赤のチョークでつなげることで、読み深めたことをふり返ることができるようにする。(可視化)</p>
	<p>13 ・ 14 / 15</p> <p>学習を振り返り、読みのめあてに対する考えを話し合おう。</p> <p>1 語り手が心に残ったことについて、自分の考えを書く。</p> <p>2 お互いの考えを発表し合いながら、読みのめあての答えを交流し合う。</p>	<p>○ イメージマップを使って自分の考えた語り手の心に残ったことを一言で書き、その周りに根拠となる文や言葉をつなげさせる。</p> <p>* 初めの考えや読み深めた場面について想起させ、ごんぎつねのどんなどころが語り手の心に残ったかを書きまとめている。</p>
	<p>3 読み深めたことや読み方を振り返る。</p>	<p>○ 掲示物をもとに読み深めてきたことや読み方を振り返らせる。</p>
<p>15 / 15</p>	<p>心に残った本を紹介する会に向けて準備をしよう。</p> <p>1 11月の本を紹介する会に向けて、読書をしていくことを確認する。</p> <p>2 自分の心がゆさぶられた本や感動した本の紹介文を書く。(課外)</p>	<p>○ 「ごんぎつね」の内容や前時の振り返りをして、自分の感動経験を振り返らせる。</p> <p>○ 図書室に行き、新美南吉の本を紹介するなどして、日常の読書につなげていくようにする。</p>

9 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援 (☆焦点化, 可視化, 共有化の視点から *評価規準)
<p>1 本時のめあてを確認する。 (1) 前時の学習を想起し, 本時学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>いたずらばかりするごんの気持ちを読み深めよう。</p> </div> <p>2 いたずらばかりするごんの気持ちを話し合う。 (1) 本時場面(1の場面前半)を音読する。 (2) 中心文「夜でも昼でも～いたずら～」を読む。 ・人目につく昼でもいたずらをしている ・いつもいたずらをしている ・一日中いたずらをしている (3) ごんのしたいいたずらを読む。 ・ほり散らしたり～ ・火をつけたり～ ・むしり取っていったり～ (4) なぜ, ごんはいたずらばかりするのかを考える。(書く活動①) (5) 少人数で意見を出し合う。(かっぱタイム) ・ひとりぼっちだから, ごんはさびしい ・ひとりぼっちだから, 家族がいない ・ひとりぼっちだから, 友達もいない ↓ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ひとりぼっちでさびしいからいたずらをした。</p> </div> <p>(6) 少人数で話し合ったことを発表し合い, ごんの気持ちを読み深める。 ・さびしくて村の人がうらやましかったから ・さびしくて誰かに気づいてほしいから ・ひとりぼっちでさびしくて, 友達がほしいから ・ひとりぼっちでさびしくて, 村の人に遊んでほしかったから</p> <p>3 本時学習をまとめる。 (1) 本時を振り返り, 読み深めたことを書きまとめる。(書く活動②)</p> </p>	<p>○ 前時までに読み深めてきたことを掲示物を使って想起させ, 学習計画をもとに本時場面を確認させる。</p> <p>○ 姿勢, 口形に気をつけるとともに, ごんの気持ちを考えながら音読させる。 ○ 「夜でも昼でも」の叙述を外して読ませ, ごんは, いたずらをいつもしていることを捉えさせる。</p> <p>○ 文末「～たり」から, 他にもまだいたずらをしていることを読みとらせる。 ○ いたずらの内容から村の人達にとって, ごんはにくい存在であることを捉えさせる。</p> <p>☆ 1人の考えについて2人が聞き, 自分の考えとの共通点や相違点を考えさせる。(共有化)</p> <p>○ しだの写真を提示し, ごんが暗く寂しい場所で暮らしていることを把握させる。 ☆ いたずらの理由を明確にさせるために, 「なぜ, ひとりぼっちでさびしいといたずらをするのか。」と問い, ごんのさびしさの中身を考えさせる。(焦点化)</p> <p>☆ 板書において, 本時で読み深めたごんの気持ちを赤チョークで囲むことで, まとめを書けるようにする。(可視化) ○ 本時で読み深めたことを振り返り, 書き出しを与え, 書きまとめさせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ごんがいたずらばかりしたのは, 親も友達もいないひとりぼっちでとてもさびしくて, 村の人達にかまってほしい気持ちやだれかに気付いてほしい気持ちだったから。</p> </div> <p>(2) 本時で使った「読みのたから」を確認する。 ・はずして読む。</p>	<p>* 本時で確認したキーワードを使って, ごんの気持ちを自分の言葉で書いている。</p>

5 本時(10/15)

公開学習② 読み深め④

6 本時の目標

- 「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」の叙述を中心に句読点、繰り返しの表現や文末表現に着目することで、兵十とさびしさをわかり合いたいというごんのひとりぼっちのさびしさを読み深めることができるようにする。
- 3人組対話でごんの行動の変化をたどりながら、ごんがつぐないを続けた理由について話し合い、一人一人の感じ方の違いを受け止めながら、ごんの気持ちを読み深めることができるようにする。

7 本時指導の考え方

前時までには子どもたちは、ごんが兵十のおっかあが死んだことを知り、自分のいたずらを深く後悔するごんの気持ちを読み深めている。

本時は、自分と同じ、ひとりぼっちになった兵十への同情からつぐないを始め、ひとりぼっちのさびしさをわかりあいたくてつぐないを続けるごんの気持ちを読み深めをする場面である。

そこで、本時にあたっては、まず、めあてを確認したあとに、中心文「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」からごんと兵十のひとりぼっちのさびしさはちがうのに、おれと同じと思ひこむごんの気持ちを考え、話し合い、ごんの兵十に対する同情を読み取る。(焦点化)

次に、書く活動では、ごんがどんなつぐないをしたのが分かるところにサイドラインを引き、ごんのどんな気持ちがわかるか書き込む。(書く活動①)その書き込みをもとにごんの様子について話し合う。一つめのつぐないをしてごんはいいことをしたと思っているのに、つぐないの仕方が間違っていて兵十を困らせたことに気付かせた後に「次の日も、その次の日も」から強い謝罪の気持ちを捉えさせる。

そして、「持ってきてやりました。」と「持っていきました」の文末表現のちがいがごんの行動の変化に気付かせ、発表させながら、根拠となる文や言葉と子どもの考えを短くまとめ、板書していく。(可視化)

さらに、「なぜ、ごんはつぐないをし続けたのか」と、問いかけ、少人数で話し合わせる。(かっぱタイム)その際、もう一度中心文にもどり、自分の考えと友達の考えが似ているところと違っているところに気がつくように一人一人の考えをしっかりと聞くようにする。全体交流のなかで、「ひとりぼっちのさびしさをわかりあいたい」というごんの気持ちに気付かせる。(共有化)

最後に、読み深めたことを確認するために赤色の○で囲み、この場面におけるごんの気持ちを子ども自身の力で書きまとめるようにさせる。(書く活動②)

8 板書計画

<p>読んで考えたことを話し合おう</p> <p>ごんぎつね</p> <p>新美 南吉</p>	<p>めあて 「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」と思ひ、くりや松たけを持っていったごんの気持ちを読み深めよう。</p>	<p>「ごんはうなぎのつぐないに、まず一つ、いいことをしたと思った ふと思いついた大急ぎの行動 これからもいいことをしよう</p>	<p>「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」</p> <p>おっかあが死んでしまって兵十もひとりになった兵十もさびしいだろう。</p>	<p>次の日には、「ごんは山でくりをどっさり拾って、それをかかえて兵十のうちへいきました。 たくさん拾って準備をした 自分で拾った。かかえるほどたくさん</p>	<p>次の日も、その次の日も、ごんはくりを拾っては兵十のうちへ持ってきてやりました。 文末表現を囲む</p>	<p>その次の日には、くりばかりではなく、松たけも</p>	<p>二、三本、持っていきました。 文末表現を囲む</p>	<p>続けてつぐないをしている。 兵十をよるこぼせたい</p>	<p>おれと同じひとりぼっちの兵十だから気持ちがわかるひとりぼっちどうしなにかよくなれないかな じぶんのことに気がついてほしい</p>	<p>まとめ ごんがくりや松たけを持っていき続けたのは、兵十が自分と同じ、ひとりぼっちだと思ひこみ、兵十とさびしさをわかり合いたいと思ったからである。</p>
---	---	---	---	--	--	-------------------------------	-----------------------------------	-------------------------------------	---	---

9 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援 (☆焦点化, 可視化, 共有化 *評価基準)
<p>1 本時のめあてを確認する。 (1) 前時までの学習を想起し、本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」と 思い、くりや松たけを持っていったごんの気持ちを読み深めよう。</p> </div> <p>2 ごんの気持ちを読み深める。 (1) 本時場面を音読する。</p> <p>(2) 中心文「おれと同じ、ひとりぼっちの兵十か。」について考えを出し合う。 ○ おれと同じ、——何が同じなのか、の意味は ○ ひとりぼっちの兵十か——かにこめられた気持ちは。</p> <p>(3) めあてに対する自分の考えを書く。 (書く活動①)</p> <p>(4) 自分の考えをもとに少人数で話し合う。 (かっぱタイム) ・なぜ、ごんはつぐないをし続けたのか考える。</p> <p>(5) 少人数で話し合ったことをもとに全体で話し合う。(全体交流)</p> <p>3 本時学習をまとめる。 (1) 本時で読み深めたことを書きまとめる (書く活動②)</p>	<p>○ 前時まで学習してきたことを想起させる。</p> <p>○ 学習計画からごんの気持ちを読み深めることを確認させる。</p> <p>○ 姿勢・口徑に気をつけて、ごんがしたことを意識しながら音読させる。</p> <p>☆ 句読点や文末表現に着目させ、ごんと兵十のひとりぼっちの違い、ごんの思いこみに気づかせる。(焦点化)</p> <p>○ めあてに対して、その根拠となる叙述にサイドラインを引かせ、自分の考えを学習プリントに書かせる。</p> <p>○ お互いの学習プリントを見ながら、自分の考えを出し合わせる。 ○ 自分の考えと友達のことを比べながら話し合わせる。</p> <p>☆ 根拠となる文や言葉と子どもの考えを短くまとめ、板書することで、まとめができるようにする。(可視化)</p> <p>☆ 「ひとりぼっちのさびしさをわかりあいたい」というごんの気持ちに気付かせる。(共有化)</p> <p>* 話し合ったことをもとに、ごんの思いこみとひとりぼっちのさびしさを書きまとめている。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ごんがつぐないをし続けたのは、兵十が自分と同じ、ひとりぼっちだと思いこみ、兵十とさびしさをわかりあいたいと思ったからである。兵十とならなかなよくなれるという気持ちがある。</p> </div> <p>(2) 本時で使った「読みのたから」を確認する。 ・くり返しの「も」を読む。 ・文末表現を読む。</p>	

5 本時 (12 / 15)
公開授業② 読み深め⑥

6 本時の目標

- 「ごんはぐったりと目をつぶったままうなずきました。」と「兵十は火なわじゅうをばたりと取り落としました。」の二つの叙述を中心に、場面と場面をつないで読んだり、呼び方の変化に着目したり、言葉を外して読んだりしながら、自分にやっとなづいてくれて嬉しく思うごんの気持ちと、ごんをうったことを後悔する兵十の気持ちを読み深めることができるようにする。
- 3人組対話で、ごんの嬉しさの根拠となる叙述の違いに着目しながらごんがうなずいた理由について話し合い、一人一人の感じ方の違いを受け止めながら、ごんの気持ちを読み深めることができるようにする。

7 本時指導の考え方

前時まで子どもたちは、兵十にくりや松たけをもっていったのは、自分だということに気づいてもらえないごんの気持ちを読み深めていった。

本時は、今までひとりぼっちでさびしいからこそ、兵十に自分のしたことに気づいてくれて嬉しいというごんの気持ちと、ごんをうった後のごんのことについて気づき、取り返しのつかないことをしてしまったと後悔する兵十の気持ちを読み深めていく場面である。

そこで、本時指導にあたっては、まず、「ぐったりと目をつぶったまま」という叙述に着目させ、動作化させることで、弱っているごんの様子を読ませる。そのとき、弱っている理由が分かる文にサイドラインを引かせ、兵十の家に入ったため火なわじゅうでうたれたことを読みとらせる。

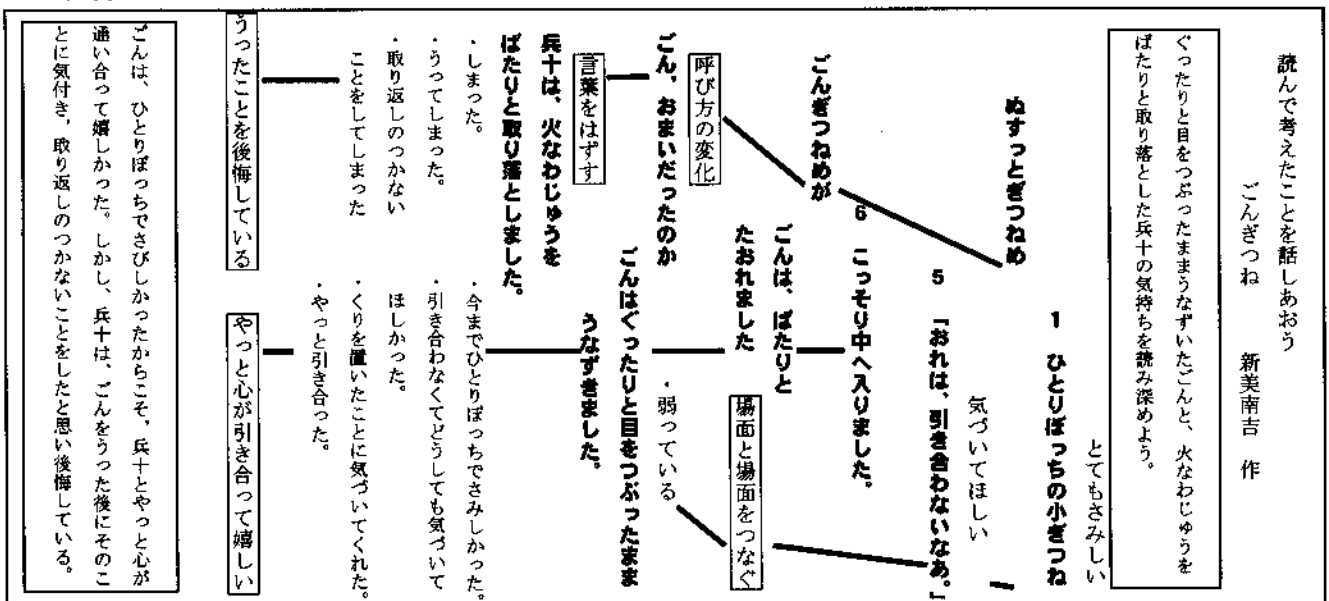
次に、「うなずきました。」という叙述に着目させ、うなずいた時のごんの気持ちを書かせる。(書く活動①) その際、書く手順に沿って書き出しを決めておくことで自分の考え、根拠となる文、解釈を分けて書くことができるようにする。(焦点化)

そして、小集団による話し合い(かっぱタイム)を行う際、話し方と話し合いの仕方を表にして提示し、自分の考えと友達の考えとの共通点や相違点に気付かせるために、根拠となる文や解釈したことに着目することを伝える。(共有化) その後の全体交流では、話し合ったことを発表させる。そして「どうしてくりを置いたことに気づいてもらえて嬉しいのか」という問いかけをし、ごんの気づいてもらって嬉しいという気持ちを読み取らせる。

さらに、「ばたりと取り落としました。」という文に着目させ、動作化させることで、ごんをうってしまったことに後悔している兵十の気持ちを読みとらせる。

最後に、本時のまとめとして、ごんの行動を青、ごんと兵十の気持ちを赤のチョークでつなげることで、読み深めたことを振り返ることができるようにする。(可視化) ごんと兵十の気持ちを書かせる際は、書き出しを与えておく。(書く活動②)

8 板書計画



9 本時の展開

学習活動と内容	教師の支援 (☆焦点化, 可視化, 共有化 *評価規準)
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <p>(1) 前時までの学習を想起し、本時学習のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ぐったりと目をつぶったままうなずいたごとと、火なわじゅうをばたりと取り落とした兵十の気持ちを読み深めよう。</p> </div> <p>2 ごとと兵十それぞれの気持ちを読み深める。</p> <p>(1) 本時場面を音読する。</p> <p>(2) ぐったり目をつぶっているごんの様子を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 兵十に火なわでうたれたから。 ・ 兵十の家にこっそりに中に入ったから。 <p>(3) うなずいたごんの気持ちを書く。 (書く活動①)</p> <p>(4) 少人数で意見を出し合う。 (かっぱタイム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごんがうなずいたわけを、叙述をもとにしながらかし合う。 <p>(5) 少人数で話しあったことを発表し、ごんの気持ちを読み深める。 (全体交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 兵十にくりを置いたのは神様のしわざと思われていたけど、自分だと気づいてくれて嬉しい。 ・ 今まで、ひとりぼっちでさびしかったから、やっと兵十と心が通い合って満足した。 <p>(6) 火なわじゅうをばたりと取り落とした兵十の様子と気持ちを読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ くりを置いたのはごんだったのに、それに気づいた後にうってしまったことを後悔している。 ・ ごんをうって、取り返しのつかないことをしたと思って悲しんでいる。 <p>3 本時学習をまとめる。</p> <p>(1) 本時学習で確かめたことを書きまとめる(書く活動②)</p>	<p>○ 前時まで学習してきたことを、掲示物を使って想起させる。また本時の学習の流れを掲示し、確認をする。</p> <p>○ 姿勢、口形に気をつけて、ごとと兵十の気持ちを考えながら読むことを意識させる。</p> <p>○ 「ぐったりと目をつぶったまま」の叙述に着目させ、動作化させる。</p> <p>☆ 書く順番に沿って書き出しを決めることによって、自分の考え、根拠となる文、解釈を書くことができるようにする。(焦点化)</p> <p>☆ 話し方及び話し合いの仕方の表を提示することによって、自分の意見と友達の見解の共通点・相違点に気付くことができるようにする。(共有化)</p> <p>○ 「どうしてくりを置いたのは自分だと気づいてもらったらうれしいの。」と問い返すことによって、ごんのひとりぼっちのさびしさからくる気持ちだということを読み取ることができるようにする。</p> <p>○ 動作化をすることで、取り返しのつかないことをしてしまったという兵十の気持ちを考えることができるようにする。</p> <p>* 本時で読み深めたことをもとにして、まとめを書いている。</p> <p>☆ ごんの行動を青、ごとと兵十の気持ちを赤のチョークでつなげることで、読み深めたことを振り返ることができるようにする。(可視化)</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>ごんは、今までひとりぼっちでさびしかったからこそ、やっと兵十と心が引き合って嬉しかった。しかし、兵十は、ごんをうった後にそのことに気づき、取り返しのつかないことをしたと思い後悔している。</p> </div> <p>(2) 本時で使った「読みのたから」を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 呼び方の変化 ・ 言葉をはさず。 ・ 場面と場面をつなぐ。 	